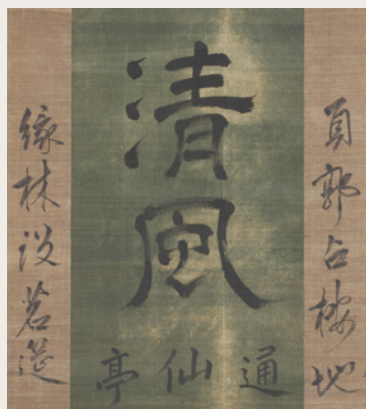




1



—煎茶道はここから始まった!—

From Baisao to Kagetsuan
—The Birthplace of the Sencha Tea Ceremony!



2



3



4



5

江戸時代初頭、隠元隆琦（1592～1673）をはじめとする黄檗僧や、長崎に来航する唐人から伝えられた中国・明時代の葉茶を用いる喫茶法をもとに、日本で「煎茶」が飲まれるようになりました。その後、黄檗僧であった売茶翁（高遊外）（1675～1763）が還俗し、本来の禅の精神を説きながら、京都で茶具を担いで茶を売り歩いたことにより、「煎茶」は大きく発展します。売茶翁の禅的姿勢や新しい茶のスタイルに感銘を受けた京都や大坂の文人により、「煎茶」は単なる飲み物ではなく精神を磨くツールとなりました。当初は煎茶に明確な様式や作法はありませんでしたが、煎茶が普及するとともに淹れ方や道具立てに様式と法則を定めた「煎茶道」として体系化されていきます。売茶翁が京都で活動していたため、煎茶道のルーツも京都だと誤解されがちですが、文人の間で発展した煎茶を「煎茶道」という芸道として確立させ、その宗匠（家元）の魁となったのは、大坂の花月菴流の流祖、田中鶴翁（1782～1848）でした。

本展では、花月菴に伝わる煎茶道具や書画を通して、売茶翁に始まる煎茶の精神文化と、それを受け継ぎ煎茶道を確立した花月菴流のあゆみをご紹介します。大阪が誇る煎茶道の原点と、その文化的広がりを堪能ください。

観覧料（税込）

一般：500円（団体400円） 高大生：200円（団体160円）

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）、大阪市内在住の65歳以上の方は無料（要証明）※団体料金は20名以上。 ※同時開催の「NEGORO 根来 一赤と黒のうるし」の観覧券で本展もご覧いただけます。



アクセス

JR・Osaka Metro天王寺駅、近鉄大阪阿部野橋駅下車、北西へ約400m

大阪市立美術館
Osaka City Museum of Fine Arts

〒543-0063

大阪市天王寺区茶臼山町1-82（天王寺公園内）

お問合せ：大阪市総合コールセンターなにわコール

TEL:06-4301-7285（年中無休：8時～21時）

記念講演会

10月4日（土）14時～16時（受付開始：13時30分）

講演①

講師：安永拓世氏（成城大学文芸学部 准教授）

テーマ：花月菴鶴翁と煎茶道の成立

—売茶翁の神格化と器物の伝来—

講演②

講師：梶山博史氏

（大阪市立東洋陶磁美術館 学芸課長代理）

テーマ：花月菴と京の陶工 -六兵衛・木米・道八・周平-

●会場：大阪市立美術館 1階じゃおりむ ●定員：50名（先着順）

●参加費：無料（ただし、当日の観覧券が必要）

※参加ご希望の方には13時30分より大阪市立美術館1階じゃおりむ前にて整理券を配布します。先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。



本展では、全作品の写真撮影が可能です。
（フラッシュ、三脚のご使用はご遠慮ください）

割引特典

本展にご協賛いただいた中国料理 桃谷樓において下記の割引特典が受けられます。

対象：企画展示当日券（半券可）をお持ちの方

※企画展示当日券1枚につきお一人様1回限り有効、他の割引との併用不可。
※特別展当日券での割引は対象外です。

期間：2025年9月20日（土）～2026年3月31日（火）

施設名：中国料理 桃谷樓 阿倍野寶筵（ひんえん）

あべのハルカスダイニング タワー館13階

中国料理 桃谷樓HP：<https://tokokuro.jp>

特典：特別薬膳コースの定価から10%OFF

本サービスについてのお問合せ：中国料理 桃谷樓 阿倍野寶筵
Tel.06-6625-2373



展覧会公式サイト https://www.osaka-art-museum.jp/def_evt/sencha

同時開催 特別展「NEGORO 根来 一赤と黒のうるし」 2025年9月20日（土）～11月9日（日）

表：『売茶翁茶具図』より「注子」「茶旗」（部分） 木村兼霞堂筆／鶴翁像 山本梅逸筆

裏：1.茶旗「清風」 大典禪師筆・桂州禪師筆・売茶翁所持・田中鶴翁所用／2.売茶翁高遊外像（部分） 伊藤若冲筆・大典禪師賛／3.白泥涼炉 炉台「無腸清玩」 上田秋成遺愛・初代清水六兵衛作・田中鶴翁所用／4.白磁水注「花月菴茶寮置 豊米造」銘 青木木米作・田中鶴翁所用／5.色絵羅漢図 須「為花月菴茶伯 周平造」銘 初代尾形周平作・田中鶴翁所用 4.5.写真：アートビジョン加藤成文 いずれも大阪市立美術館寄託品